

日本精神保健看護学会

第15回 総会・学術集会

メインテーマ：変容する精神保健問題への看護職のチャレンジ
—医療・司法・看護の重なりの中—

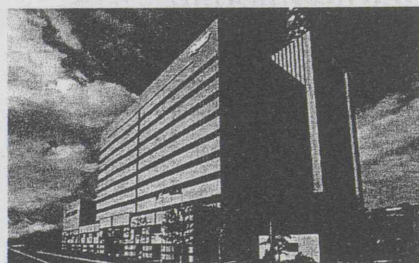
現代社会が目まぐるしいスピードでさまざまな方向へと変化する中、精神保健に関する問題も大きく変化してきています。虐待や引きこもり、薬物やアルコールに関連する事件、自殺など、精神保健に関する話題が新聞を賑さない日はありません。このような多様化した精神保健問題に対して、わたしたち看護職者はどのような役割を担うことができるのでしょうか。季節もよい北海道の地で、皆様とともに考えていきたいと思えます。

- とき 2005年6月4日(土)・6月5日(日)
- ところ 北海道立道民活動センター かでる2・7 (札幌市)

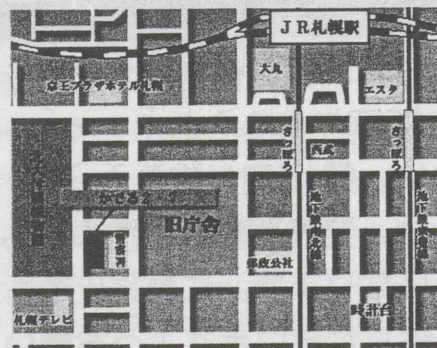
Program

- 基調講演 粕田孝行(碧水会 長谷川病院 副院長・看護部長)
「ボーダレス社会での看護の行方」
- シンポジウム
「うつ の時代—社会の読み解きと看護実践の手がかり—」
- ワークショップ、演題発表

北海道立道民活動センター かでる2・7



- ◆飛行機：新千歳空港からJRエアポートシャトルで札幌駅まで36分
- ◆電車：JR札幌駅南口から徒歩12分
- ◆地下鉄：地下鉄南北線「さっぽろ駅」から徒歩10分
- ◆車：道央自動車道「札幌北IC」から5km
JR札幌駅からタクシー3分



一般演題発表募集について

本学会では、会員相互の意見・情報の交換、交流を重視した参加型の学会として十分なディスカッションの場としたいと考えております。萌芽的研究、実践的報告、研究として発展段階にある演題もおおいに歓迎します。

単なる成果の発表だけでなく、会員の皆様が日々行なっている実践や研究を検討する場として、どうぞお申し込みください。

発表をご希望の方

本大会よりホームページ上で発表申込みをしていただくことができます。発表をご希望の方は、「日本精神保健看護学会ホームページ (URL: <http://www.japmhn.jp>)」から「第15回学術集会」のホームページに入ってください、「一般演題募集」をご覧ください。本大会より**発表の申込みの際に抄録原稿を添付**していただくこととし、**発表申込みの期日は2005年3月7日**としております。

ホームページの「一般演題募集」画面をご確認の上お申し込みください。抄録作成に関する情報は、「一般演題募集」画面で確認していただけます。また、発表申込みは、「一般演題募集」画面下の、「一般演題申込」ボタンをクリックしていただくと「一般演題の登録」画面になります。必要事項をご記入の上、返信してください。なお、発表の申込みについてのお問い合わせは、entry@japmhn.jpもしくは事務局FAXまでお願いいたします。

なお、郵送による発表の申込みをご希望の方は、お手数ですが、事務局FAXもしくはentry@japmhn.jpまでお問い合わせください。詳細についてお知らせいたします。この場合、発表申込みの期日を2005年3月1日消印有効とさせていただきますのでご了承ください。

参加申込みについて

参加申込みは、「日本精神保健看護学会ホームページ (URL: <http://www.japmhn.jp>)」から「第15回学術集会」ホームページに入ってください、「参加申込み」をご覧ください。今大会より、ホームページ上で参加申込みをしていただくことになりました。お手数ですが、よろしく願います。

入金は、例年と同様、同封の郵便局振替用紙を使用し、一人1枚でお願いいたします。通信欄の該当箇所にチェックしてお送りください。入金を確認しましたら、後日事務局より領収書をお送りいたします。申込み手続はここで完了です。ホームページ上で申込み手続をされていない場合には、通信欄を確認して事務局で処理させていただきます。

専用の振り込み用紙がない場合は、郵便局備え付けの振替取扱票を使用し、振替口座「02790-3-63386」、「加入者 日本精神保健看護学会第15回学術集会」宛てに、**1) 会員 (会員番号)・非会員・学生の区別、2) 懇親会参加の有無、3) ホームページ上の申込みの有無を通信欄に明記の上、合計金額をお振り込みください。**

学術集会に関するお問い合わせ先

お問い合わせはmailもしくはFAXでお願いいたします。

学術集会事務局 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757

北海道医療大学看護福祉学部看護学科内

日本精神保健看護学会 第15回学術集会事務局 (担当: 佐久間・笹木・内田)

事務局 Mail Address: gakkai@japmhn.jp 事務局 FAX: 0133-23-3483



ホームページのお知らせ

日本精神保健看護学会のホームページ (URL: <http://www.japmhn.jp>) および第15回学術集会のホームページが公開されております。ホームページの公開にともない、第15回学術集会から、ホームページを活用した学術集会運営を開始いたしました。発表登録や参加申込みなどの手続きをホームページからもしていただけるようになります。これにともなって、一部の手続き方法を変更しておりますので、ご確認くださいませよう願います。

日本精神保健看護学会平成16年度ワークショップ

「精神看護学実習指導上の困難

—“臨地指導者、教員”それぞれの言い分—

去る11月13日（土）、大阪大学中之島センターにて、ワークショップを実施いたしました。昨年度好評だったワークショップ「精神看護学教育の経緯と今後の課題」に引き続き第2段として、今回は実習に焦点を絞ったテーマといたしました。

午前中は、シンポジストとして神戸大学助教授 川口優子先生、兵庫県医科大学附属看護専門学校 大山末美先生、医療法人北斗会さわ病院看護部 眞鍋信一看護課長をお迎えし、実習での学生理解

や指導について、臨地指導者、教員の立場から「それぞれの言い分」を闘わせていただきました。教員も臨地指導者も、生活体験が乏しい上に自分の感情を読まれたくないのかどうか？他者と表面的な付き合い方を見せる学生に対して、右往左往させられながら指導の方向性を共有しようとしているようです。しかし、指導者双方への思いは、臨地指導者からは、「教員は臨床経験がないからか遠慮がち」教員からは「経験がなくても教員としてしっかりやっつけていける」「しかし、教員の臨床能力は鍛える必要があるのではないか」とすれ違う部分があるようでした。

柴田恭亮理事の司会により、会場での意見交換も活発に行われました。参加者からは、「何校もの課程の異なる学校を受け入れているために、レジネスの差も大きく指導が難しい」という問題、鬱状態に陥るなど学生の心理社会的問題が出された他、「臨床は卒業後の就職を強く望んでいるのではない

か」「そうではない。実習そのものから看護師として学べることが多いのだ」と学生受け入れについての本音と建前も覗きました。

午後は、「看護専門学校の臨地実習指導上の問題」「臨地指導者と教員の懇談」などテーマ毎に1グループ7名程度の小グループに分かれ、フリートーキングを行い参加者の相互交流の時間を作りました。シンポジウムの刺激的な意見交換に触発されたのか、「車で病院実習に来ないように」と指導しても全く行動変容を起こさない学生とその学校への臨地指導者の怒りや、それに対して「それは特別な学生」と学生の肩を持つ教員といった対立意見も展開され、本音での語りが続きました。こうした対立の後には、「ここだ



から話すけど」と小グループワークだからこそその相互交流も深まり、話は留めがありませんでした。普段の臨地指導者、教員の関係は、実習をめぐって現実的な利害関係のあるもの同士としての関係がほとんどですが、ここでは、そうした「持ちつ持たれつ」の関係から解き放たれるために自由な会話が促されたようです。

「こういう自由な意見交換を現場でもお互いに行いましょう」といった声も多く聞かれました。けれども、自由な意見交換ができない部分は、「表面的な関係になりがち」とわたしたちが評価する学生の取る関係と同じです。学生が、自分を自由に表現するには、まずは指導者同士の関係を変化させていく必要があるのかもしれない。

アンケート結果では、「シンポジウムの議論の時間がもっと欲しかった」という意見があり、情報を入力するばかりでなく、自分からも発信し共に考えていきたい参加者の多さを痛感いたしました。65名と多くの方にご参加いただき今回も盛況に終わりました。精神看護学教育への皆様の関心を引き継いで、次回は学生の参加も交えた企画を考案中です。また、多くの皆様のご参加をお待ちしております。最後に、紙面をお借りして、今回、会員の皆様への事前の広報活動が不十分であったことをお詫びいたします。

(教育活動委員会 榊恵子、國生拓子、柴田恭亮)



精神保健福祉法の改正の時期にさしかかりました。まだ具体的な方向性を打ち出されていないようです。皆様の精神保健福祉法の改正についてのご意見、ご要望をお聞かせください。また精神看護学領域で唯一の学術団体である当学会が、精神保健福祉法改正に関して取り組むべき活動についてのご意見もお待ちいたしております。

**学会員
ニーズ調査
ご協力の
お願い**

本学会は精神看護学の発展をはかり、広く知識の交流を行うことを目的としています。そのため学会員の皆様のニーズを反映させた活動に、積極的に取り組みたいと思っておりますので、同封しましたニーズ調査にご協力をお願いいたします。

ニュースレター原稿募集

学会では、学会員が主催している精神看護に関連する活動を支援し、また学会員同士がより広く交流できるよう、ニュースレターへ掲載する原稿を学会員の方々から募集したいと思っております。

学会員が主催している精神看護に関連した活動で、ニュースレターで広報してほしい活動について、その活動内容、主催者(お名前とご所属)、開催場所・時期、参加方法、連絡先についてお知らせください。また現在の精神医療や看護に関するご意見や、今、直面している現場の問題、あるいは日頃から気になっていることなど、学会員の方々で共有したい内容についての記事をお送りください。編集委員会で検討させて頂いて、ニュースレターに掲載したいと考えております。お原稿お待ちしております。

お問い合わせ先 日本精神保健看護学会編集委員会(荻野)
メールアドレス mogino@faculty.chiba-u.jp
FAX 043-226-2431

The Japan Academy of
Psychiatric and
Mental Health Nursing

*News
Letter*

編集後記

▼昨年を一言で表す漢字は「災」でした。年末にも大きな災害がありました。昨年は本当に心痛むことが多い年でした。

▼今年は精神保健福祉法や介護保険法の改正が行われます。精神保健福祉行政は大きな変化を迎えることになると思われます。好ましい方向への変化を期待したいと思います。

編集委員 永井優子 岡田佳詠 荻野雅